

日時：2014年3月10日（月）15：00から18：30

場所：東洋大学2号館第1会議室

出席者：浮谷秀一理事長、中村真副理事長、山崎晴美、渡邊芳之、家島明彦、小塩真司、松田浩平、松田英子

事務局：加藤司（事務局長）、太幡直也

委任：二宮克美

日本パーソナリティ心理学会第111回常任理事会議事録

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（渡邊）

(1) 機関誌編集委員会の開催状況について

「パーソナリティ研究」第22巻第3号の掲載論文について審議をした。

(2) 「パーソナリティ研究」の編集発行状況について

1) 「パーソナリティ研究」第22巻第2号の発行状況について

11月30日に発送された。

2) 「パーソナリティ研究」第22巻第3号の発行状況について

当初、以下の論文12本（原著4，資料2，ショートレポート6）の掲載を決定して、11月20日に国際文献社に入稿した。

12月11日に、採択された著者より、データの分析に大きな間違いがあり論文に述べられた知見が妥当でないので取り下げたいとの申し出があり、常任編集委員会で審議した結果取下げを承認した。論文11本（原著4，資料2，ショートレポート5）で印刷を進行し、3月中に発行される予定である。常任理事会でも、以上の手続きが承認された。

3) 「パーソナリティ研究」第23巻第1号以降の編集状況について

在で採択となっている論文は6本（原著2本，ショートレポート4本）である。

(3) 投稿状況、審査状況について

1) 投稿状況について

昨年4月から今年3月6日までの投稿状況は下表の通りである。1年間の投稿数は62本で、論文種別変更の悪影響もなく前回理事会時より少し増えている。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計	備考
2013	4	3	0	1	0	4	
	5	1	2	4	0	7	
	6	2	0	1	0	3	
	7	0	0	3	0	3	
	8	2	廃止	0	廃止	2	投稿種別変更
	9	2	廃止	1	廃止	3	
	10	6	廃止	5	廃止	10	
	11	2	廃止	3	廃止	5	
	12	4	廃止	3	廃止	7	
2014	1	2	廃止	4	廃止	6	
	2	3	廃止	4	廃止	7	
	3	3	廃止	1	廃止	4	3/6まで
合計		30	2	30	0	62	

年次ごとに比較しても次表のようになり、ここしばらく減り気味だった投稿数がやや回復している。

年	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2007	41	10	21	1	74
2008	23	12	24	3	61
2009	29	9	25	0	63
2010	31	11	23	0	65
2011	34	6	21	0	61
2012	20	12	19	0	51
2013	28	4	25	0	57

2) 審査状況について

昨年4月から3月までの審査状況は以下の通りである。投稿数の減少に対応して採択数も減少している。年次ごとに比較したのがその下の表である。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下	備考
2013/4	5	7	1	0	
5	4	4	0	0	
6	0	7	2	1	
7	0	11	1	0	
8	1	6	2	0	
9	2	9	0	0	
10	5	8	2	0	
11	4	12	2	0	
12	1	8	0	1	
2014/1	2	6	0	1	
2	1	9	4	0	
3	1	6	1	0	3/6まで
合計	26	93	15	3	

年	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下
2008	35	105	15	9
2009	31	95	20	6
2010	31	80	16	7
2011	30	112	17	10
2012	36	87	22	7
2013	28	88	16	5

(4) 問い合わせ

感情心理学会から、ねつ造・剽窃についての問い合わせがあり、委員長が対応した。

2 経常的研究交流委員会（代理：加藤事務局長）

(1) シンポジウム

平成 26 年 2 月 22 日（土）14 時～16 時に、以下の事業を開催した。

「ネット依存を考える」

話題提供者：橋元良明（東京大学）、五十嵐祐（名古屋大学）、平井大祐（オンラインゲーム調査研究所）

場所：信州大学（松本キャンパス）人文学部棟 3 階 4 番講義室

(2) 第 23 回大会委員会企画シンポジウム

パーソナリティによる反社会的行動の説明—その限界と可能性—（仮題）

現代青年の他者との関係はどのようなものか

以上の 2 件を予定している。

(3) 大会開催時以外の時期のシンポジウムについて

2015 年 2～3 月頃を予定している。

3 広報委員会（家島）

(1) YPP2014

10 月 3 日（金）に開催予定である。

実行委員長は野崎優樹（京都大学）に決定した。

(2) 大会企画シンポジウム

タイトル：感情と動機づけをめぐって（仮）

4 国際交流委員会（小塩）

(1) de Fruyt 先生招待講演

第 22 回大会企画の報告

"General and maladaptive traits from childhood to adulthood: lessons to be learned for the conceptualization and assessment of personality pathology"

参加者：94 名

5 学会活性化委員会（松田英子）

(1) 第 22 回大会発表賞

村上達也・西村多久磨「小中学生における向社会性パーソナリティの発達過程」

増井啓太・入口将一・浦光博「不公正な状況への非介入に及ぼすサイコパシー特性と賞罰の影響」

承認された。

(2) 学会賞の創設について

論文賞の創設を検討するための論文賞創設小委員会を設置し、委員長に中村真副理事長が選出された。委員として、渡邊、松田英子が承認された。

(3) 委員会構成

任期 3 年

委員長 松田英子（江戸川大学）、副委員長 三保紀裕（京都学園大学）

委員 東海林麗香（山梨大学：2014 年度大会主催校）、堀毛一也（東洋大学）、森津太子（放送大学）、内藤まゆみ（高崎経済大学）、中村真（江戸川大学）

以上承認された。

6 各種電子化検討小委員会（松田浩平）

(1) 委員構成

委員長：松田浩平（東北文教大学）

副委員長：家島明彦（島根大学）

委員：佐藤恵美（東京富士大学） 佐藤広英（信州大学） 竹内一真（京都大学）

以上、承認された

7 学会 20 年史編纂委員会（渡邊）

進展状況について報告がなされた。

III 日本心理学諸学会連合

1 日本心理学諸学会連合について（浮谷理事長）

12月22日に定例理事会が行われた。理事長選挙が行われ上野一彦氏が選出され、副理事長に佐藤隆夫氏が選出された。

2 心理学検定について（浮谷理事長）

特になし。

IV 事務局報告（加藤事務局長）

審議事項に引き継ぐ

V 第23回大会準備状況について（代理：加藤事務局長）

第23回大会の準備状況が報告された。

VI その他

1 2014年度モデル予算について（山崎）

モデル予算が提案され、議論された。

審議事項

I 第110回常任理事会議事録承認に関する件（加藤事務局長）

承認された。

II 新入会員に関する件

1 新入会希望者の件

(1) ML承認済み

21名が追認された。

2 退会希望者

6名が承認された。

以上の承認を受けて、3月7日現在、会員総数は917名である（一般会員611名、院生会

員 292 名、学生会員 5 名、名誉会員 8 名、賛助会員 1 名)。

Ⅲ 国際文献社との契約の件 (加藤事務局長)

承認された。

Ⅳ 名誉会員の件 (加藤事務局長)

荘厳先生、瀧本先生を名誉会員に推挙することが決定した。

Ⅴ その他

なし。

次回常任理事会は、6月7日、14日、21日の15:30から開始予定
詳細はMLで決定する。